

強固な農斗委結成さる

三つの農学部の学友諸君！現在この生田のお山にも積もり積もった不満が諸君の前に提出され、これによってこのお山も現在特に大噴火をおこして真赤な炎が炎え上がらんとしている。このような状況下にあって、特に2年生の諸君におひては去る29日から農場実習が始まり昨日4日まで、全授業が休講となってしまった。その為一部の学友諸君を除いてはこの一週間事実経過を知りたい人が多いのではないかと思ふここにそれを明示した。

この一週間はまさに秒単位で時が動いた重要な期間だったのである。

して、この一週間の出来事は、まさに我々人間にとて非常に重要な課題が投げかけられてゐるのである。

月に入った2日正午より農学科1年2組の先進的学友諸君がクラス討議の結果として全ての授業をボイコットして、そして50時間のハンガースライキに突入したのである。彼等は討論・討論を重ねた結果、数多くの願意識を持つつも、何ら具体的な行動を起こさない自分に対して、へたまれなくなり、自己との斗争の中から、あのような行動を起したのと考へる。そして彼等は、明大の六項目要求貫徹・中教審答申粉碎を叫つつ、現在の体制に、そしてこの体制にベッタリの理事会、そしてこの事会に追従しながらも、学生との間で欺瞞的態度を取つてた学生・教授会に対して、強固な弾劾の決意を持ってハンストに突入した。し

し諸君、我々は、彼等がハンストの行動を取りつつ同時に、我々にも、いか抗戦の徳先を向けている事を見逃してはゐない。つまり先にも、一部を書いたが、僕達自身、学校に対して、いや、政府反動に対してもしも不満や反感を持つつても、それがそのままに終わってしまって、何

スローガン

- 六項目要求貫徹 寮の完全管理運営権獲得・学生部解体
- 農學部再編勝利 農學部再編斗争勝利・學費斗争処分撤回
- 中教審答申粉碎 学館斗争勝利・健保斗争勝利

うきの意志を行動をもって表わさないでいる事が往々にしてある。つまりそれに反対であっても、何ら具体的な行動をもって、その意志を表示しないかぎり、それは反対しているとは言えないものである。意の為に付け加えるが、何も街頭デモやバリケード封鎖のみがこの具体的な行動なのでは無い。たとえ、戦術的には反対であっても、かと言って斗争に参加せず、权力に反抗しないという理屈は成り立たないものである。だから、ふまえて我々は、自ら、今までとてきた自己の態を見直し、自己批判をして、そして同時に一切の既成概念をかなく捨てて、この明大斗争について考へ、かつ主体的に取り組んでいかなければならぬ。そうする事が、あの一年生のハンストに答える事と見える。そしてこのハンストには、もう一人農学科2年1組の石岡君が一緒に加わっていた事を付け加えよう。彼は去る1日に農場実習を終え帰ってきたばかりなのであった。

次に、こうして4日には教授会との間に処分撤回・再編勝利(カリキュラム)・校舎保障・教授会解体を要求して団交が開かれたのである。そしてこの団交の席上に於いて、これらハンストを主体的に実行した学友は堅い決意表明を行ない、そしてさすがに石岡君にあっては50時間も過ぎて、もう一日、ハンストを続行すると云ふ声明が發せられたのである。この団交に於いては、さきの2年生の農場実習についても問題になり、実習実施日のわずか三日前にその日程が一方的に通告された事等、カリキュラム面上もしても教授会の学生の意見を無視した独走など、現在の大連の自治=教授会の自治の実像である事が、より一層明確になったのである。

そしてさらにこの団交の席上にいた教授全員が一様に、我々の打ち出した「自主講座案」に対して「私は理屈的には賛成です」と言った事を付け加える。そしてこの後、来る11月に生田校舎に於いて対理事会・学生部・教授会団交が開催される。ようする事を確約し、そしてこの団交終了後、各連協組合を基盤とした農學部斗争委員会が団交に出席した圧倒的多数の学友の支持をもって結成されたのである。

農學部2年連系各協議会